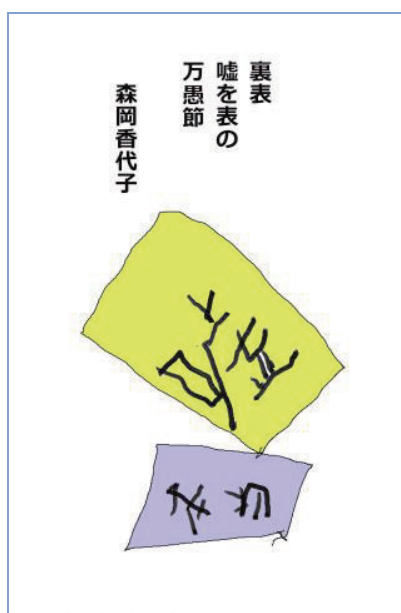


■今月の特選句

2025年5月



裏表嘘を表の万愚節

森岡香代子

なるほどね。物事にある「表裏」「善悪」「建て前と本音」「光と影」は、それぞれが表裏一体。四月一日は裏が表にひっくり返り嘘がまかり通る日。



目の奥に春の憂鬱のある埴輪

谷本 宴

埴輪の目は眼球がない。だけど空洞の目がある。その空洞に何を感じるかは、見る人次第。埴輪の目は、埴輪の気持ちとも作者の気持ちとも。



たんぽぽや黄色に生まれてよかったね

井口夏子

擬人化の句だが、作者はたんぽぽと友達になって語りかけている。こういう擬人化もあるんだね。読者の心をふんわり、ほんわかとさせるのがいい。



まっすぐに生きて切なし猫の恋

黒田久美子

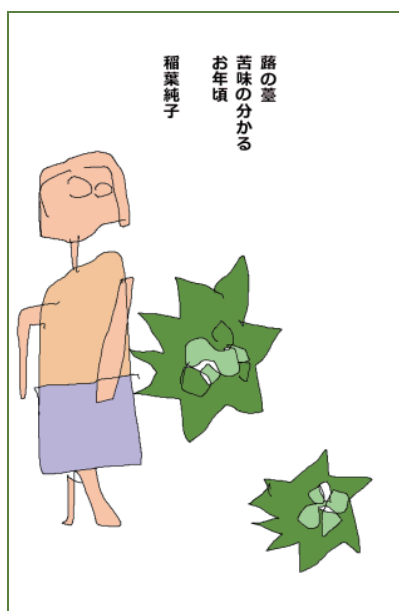
普段は上品なのに恋の季節には狂ったように本能を剥き出し一途である。「切なし」ということは恋は成就していない。よいご縁がありますように。



さくらさくら散りながら居場所探します

大林和代

桜の花びらは、散りながらどこに着地しようかと迷うものなんだね。風のいたずらで、納得のゆかぬままに着地させられる気の毒な花びらもある。



路の蔓苦味の分かるお年頃

稲葉純子

甘い、辛いだけでなく、苦味に旨味を感じるのは何歳からだろうか。苦味が美味しくなるのは、味を感じる細胞が減るから。つまり老化らしいよ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

春一番よろめいてます高齢者

・・・「美德のよろめき」かもしれぬ

青木輝子

レアメタル毫り取らむと春疾風

・・・下心をば表に出して

和田のり子

この漢字ルビにびっくり風信子(ヒヤシンス)

・・・最初は誰も読めないものよ

井野ひろみ

切り出せぬ別れの言葉春炬燵

・・・足が仲良くしてたら無理よ

池田奈美子

囀やたまに泣き言あるかもね

・・・それは最後に残った一羽

岡本やすし

S Lのやうな音たて春の雷

・・・サイズにあらず蒸気機関車

上山美穂

告白は一日延ばし四月馬鹿

・・・四月は二日以降がいいね

白井道義

スリッパの上で寝てゐるうかれ猫

・・・寝床で休まず迂闊猫とも

水本明日香

行き先をもう決めている恋の猫

・・・アタックすると決意も固く

三木雅子

凜として触るなと言う白椿

・・・散り際じつと見極めてをり

南とんぼ

花疲れ乗り越しもよし山手線

・・・山手線には終点ないから

峰崎成規

かぎっ子のぶらんこ一番星を蹴り

・・・きつとその子は足長となる

柳 紅生

頑固者たうとう引いた春の風邪

・・・風邪を引いたと決して認めず

吉川正紀子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

卒業も出来ずリタイアしたままで
日向ぼこ妻の話はアレアレと
人知れず咲く老梅の花ざかり
四月馬鹿自分の金だよ還付金
ライバルに栄転をされ四月尽
四月馬鹿おんば日傘のギャルが行く
タッチするカード間違へ臃かな
小さき頃ぢいちも立たされ土筆かな
土筆らは伸びるにまかせ墓の道
ここかしこ墓守おらず彼岸寺
梅雨寒や大きなくしゃみ窓を閉め
梅雨の朝子にさしかける母の傘
大寒や車突っ込む落とし穴
退院の決まりし友とゐてぬくし
恋人と呼ばれし頃よ花の雲
夢現食前食後春眠す
親の脛きれいにかじり新成人
丈草忌生活保護のない時代
引き籠る人の元祖か丈草忌
遁世する程でもないか丈草忌
スタッドレスタイヤ春雪に又呼ばれたる
招かざる客のひとつに春の蠅
造花から生花に変える彼岸かな
入園式ヒールのママも緊張の
春雨はビーズ弾けて窓を打つ
春風や美術館となる散歩道
西行の桜吹雪を浴びてをり
木も風も全き自由春休み
ミルクまだ皿から飲めぬ子猫かな

相原共良
相原共良
相原共良
青木輝子
青木輝子
赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安
井口夏子
井口夏子
池嶋久春
池嶋久春
池嶋久春
池田奈美子
池田奈美子
池田亮二
池田亮二
伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦
稲葉純子
稲葉純子
井野ひろみ
井野ひろみ
上山美穂
上山美穂
卯之町空
卯之町空
卯之町空

春霞かと愛でたのに黄砂とは

白木蓮いちどに咲いて散り果てる

スリッパとクロス取り換え春仕度

弁当箱に卵のふたつ古茶に合う

山寺の雉のゆかしき距離にをり

図書館の本の重さや緑の夜

ひとひとにひとひとひとにさくら満つ

葉桜は幹専用の執務室

代々の子猫の名前チャッピーで

摩耶山の春風淡路四国へと

海の日帰らぬ御霊に合掌す

まっすぐな竹まっすぐな心遍路道

山頭火呪文唱えて夜の街

巢燕のウンが付いたよ車にも

手ぶれ写真なれど鮮やか翡翠の青

順番に抱っこで見れたよ虹の橋

お経には無の字が少し春彼岸

風景を派手に枝一杯の花杏子

浮かぶ如し庭に咲きたる黄水仙

夢で追ふ子どもが逃がした風船を

台風は家族を閉じ込め和睦させ

野焼へと急ぐ煙を目印に

冬鷺を避けて飛びかう飛来物

野遊びは気まま目標など捨てて

犬猿の真偽は不明犬ふぐり

世界中の氷溶けさう雪解水

落椿ちるさくら咲く花水木

花雪洞仕舞われてゆく道後哉

制服の子よ春の行く方へと

お花見の団子は母とふたありで

もどかしい車椅子でのお花見は

AIで分析したる春の火事

梅野光子

梅野光子

梅野光子

遠藤真太郎

遠藤真太郎

遠藤真太郎

大林和代

大林和代

岡本やすし

岡本やすし

沖枇杷夫

沖枇杷夫

沖枇杷夫

加藤潤子

加藤潤子

加藤潤子

門屋 定

門屋 定

門屋 定

北熊紀生

北熊紀生

木村 浩

木村 浩

工藤泰子

工藤泰子

工藤泰子

くるまや松五郎

くるまや松五郎

くるまや松五郎

黒田恵美子

黒田恵美子

黒田恵美子

恋の猫勲章数多鼻の傷

血の色は今紅ならん恋の猫

フニャフニャの紙ストローの春憂ふ

前髪短し春風心地良し

あ、春の空机に頬杖ついてゐる

マニュキアを知らぬ吾の指蓬摘む

一つ横向き整列のチューリップ

偽物の窓に本物の春灯

トランプの思ひ付きの関税春寒し

杉花粉過ぎれば檜と黄砂来る

霜焼の治らぬままに春闌ける

泣きながら入学滑り止めの学校に

臺立たば仔猫も値札半額に

三月やフランシーヌはおばかさん

群来と聞き海に飛び出すゴム合羽

文字盤で「花はまだか」と尋ねられ

鷹化して鳩にといふは黒魔術

反抗期すんなり抜けて入学す

たちまちに眠りに落ちる恋の猫

赴任地は朧に浮かぶ瀬戸の島

文字追うて中身分からず目借時

ランドセル火事から守り入学す

冬がどぎまぎしてるカタカナの花

上手に歩けませんデパートの広さ

花にみな集まる一時蝶になる

ずぼらかな猫も杓子も涅槃まね

山影に洩しふ咲いて花三分

挨拶はお国言葉で新社員

満腹は幸か不幸か降誕会

飯粒をきれいに食ふや空海忌

春愁のわれの胃袋五十路かな

黒田久美子

黒田久美子

桑田愛子

桑田愛子

桑田愛子

桜井美千

桜井美千

桜井美千

佐野萬里子

佐野萬里子

佐野萬里子

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

敷島鐵嶺

上甲 彰

上甲 彰

上甲 彰

白井道義

白井道義

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴鹿洋子

鈴木和枝

鈴木和枝

鈴木和枝

高田敏男

高田敏男

高田敏男

田代輔八

田代輔八

田代輔八

春寒や吾の格好のぶざまなる

あの者の本性見たり地虫出づ

蛇出づる人に危害を加ふなよ

春風の妙にくすぐる河馬の耳

さりげなく別の話に父子草

米櫃の底が尽きたり春深し

うぐひすの「けこ」やふたりの笑みこぼれ

はこべらをはらぺこと読みランチ行く

春うらら選句邪魔する腹の虫

春の山雨の恵みを痛感す

さやうなら突き放したき花粉症

春炬燵口先だけで用を足す

紋白蝶追いかけていくブルドッグ

春愁や上司の席の代わらざる

吹くからにうはの空なる雲雀笛

ありたけの椿を掃くや虚子の忌に

隅つこの隠れ家に住み聞茶かな

名人と迷人のみて雛飾る

恋と云ふ文字に憧れ雛あられ

スリッパの中に隠れてゐる仔猫

春愁の小さき嘘から始まりぬ

青き踏む親父譲りの扁平足

女子の名にみんな子がつき種痘の日

四月馬鹿シカは太って馬になる

花筏曲がりくねって色気だす

山火事の鎮火はまだか春の暮

囀りにかき消されたるプロポーズ

愛し合うというも苦行や桜貝

ヤッホーにアッホーと来る春の山

ひこ孫はアメリカ人よ雛祭

アメリカの祖母来る初節句のために

日米をつなぐひこ孫の雛祭

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中やすあき

田中やすあき

田中やすあき

谷本 宴

谷本 宴

月城花風

月城花風

月城花風

土屋泰山

土屋泰山

土屋泰山

百目鬼強

百目鬼強

百目鬼強

尚山和桜

尚山和桜

尚山和桜

長井多可志

長井多可志

長井多可志

長井知則

長井知則

長井知則

永井流運

永井流運

永井流運

長尾七馬

長尾七馬

長尾七馬

霊峰に横恋慕せし春の雲

遊足の半眼菩薩夏兆す

泰山木臍を曲げたる高さかな

春風の按摩が効き過ぎ枝垂れ桜

あんぱんのへそを隠して四月馬鹿

白酒は苦手かビア派の右大臣

日向ぼこ同じ話の呆け同士

杖先でたんぽぽ目覚めさせてをり

初燕マンション街に軒探し

しつかりもちやつかりもゐて新社員

火曜日は卵の日です春うらら

思ひ出に濃淡のあり八重桜

菜の花や競いて咲きし美人達

春大根素足は細り値は太り

杉花粉予想通りに大暴れ

虫博士なる子の掘るや春の土

新社員紅筆なども新調し

庭へ来る例の二三羽囀れり

侮れぬ齢となりし春の風邪

腰おろす土手あたたかく弾みをり

翻りひるがへりつつ走る野火

恋などとしんどいことは捨てた春

昨日今日花追うためのストレッチ

三人が日向を歩く春半ば

春一番賞味期限はひと日のみ

卒業のその後の肝の伸び縮み

歳の豆食べ過ぎですよと言われても

目白来て雲南黄梅花定め

シャリシャリと別れ霜踏む前立腺

見渡せば啓蟄近づけば墓穴

「だつてさ」はてんで馴染めぬ土筆摘む

雛あられそつくりさんとこつくりさん

西野周次

西野周次

西野周次

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

久松久子

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

日根野聖子

細川岩男

細川岩男

細川岩男

ほりもとちか

ほりもとちか

ほりもとちか

三木雅子

三木雅子

水本明日香

水本明日香

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

明神正道

明神正道

明神正道

棕本望生

棕本望生

棕本望生

こんなにも高くていいの春キャベツ

妻逝けど子ども三人お正月

人様のとやかく言へぬ猫の恋

バオバブに負けるもんかと葱坊主

春の月浮かれた顔を雲かくす

朝寝してうしろめたさの中にゐる

お玉杓子の丸さを蝌蚪は角ばらす

挿木して根は生えたかと抜いて見る

期待以下以上でもなく春の星

あやとりの研究をする菜種梅雨

雲雀知る天にも昇る気持ちかな

朝寝して薬サブリのフルコース

春昼やセルフのレジの練習中

目を皿に刺蛾(いらが)の繭を退治せむ

眼福や雪割草の二重八重

のどけしや長長続く立ち話

千里より辿り着きたり窓の砂

冬過ぎて夏来たるらし温暖化

咲き具合幹事泣かせの花の宴

ミャンマーもガザも知らぬの雛かな

世渡りのうそも方便四月馬鹿

忠魂碑仰ぎ首ふる黄水仙

人集うことが楽しき花見酒

春の川きらきらきりと喋りだす

草青む斜面きやあきやあ土手滑り

落花追ふ独り遊びの子がひとり

百本の色鉛筆に春惑ふ

どの人も猫を探すや涅槃図に

どこからかおほほうふふと雛の宴

村松道夫

村松道夫

村松道夫

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山下正純

山下正純

山下正純

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子